

世界 LNG 動向 2023 年 9 月

橋本裕*

はじめに

中国の LNG 輸入量は、2023 年 1 - 8 月で 4551 万トン、前年同期比 12%増となった。但し、2021 年同期との比較では、依然 12%低い。他方、日本の LNG 輸入量は、2023 年 1-8 月で 4338 万トン、前年同期比 13%減となった。中国のパイプラインガスも含めた天然ガス輸入量は、同期間に 7771 万トンと、前年同期比 9%増、2021 年同期比では 2%減であった。

9 月末時点でのスポットガス・LNG 価格動向をみると、TTF は 2022 年 54 米ドルから 2023 年 13 米ドル相当、アジア LNG スポット価格は 40 米ドルから 14 米ドルと大幅に下落した。

豪州最大級の LNG 輸出プロジェクト 2 件で、オペレーター Chevron と労働組合側との話し合いが不調となり、9 月 8 日より段階的にストライキが実施された。同国公正労働機関（FWC）が調停に入り、その調停案に 22 日、両者は合意し、収束に向かった。この争議期間中も、オペレーター側の事業継続プランにより、LNG 出荷は両プロジェクト合計で 17 カargoとなった。

一方、Woodside 社による Scarborough ガス田開発は、豪州連邦法廷が 9 月 28 日、環境対策計画の一部を無効と判断したことにより、再度修正計画を提出する必要が生じ、9 月に計画していた地震探査計画を延期する見込み。他方で本件と並行推進される Pluto LNG 設備第 1 系列改造計画は、エンジニアリング・調達・建設管理（EPCm）契約を確定した。

インドネシア Tangguh LNG 拡張プロジェクトは、EPC コントラクター連合が建設、オペレーターへの引き渡しを完了し、本格稼働に向け前進している。

米国では、Sempra 社の Port Arthur LNG 第 2 段階拡張プロジェクトを、連邦エネルギー規制委員会（FERC）が承認した。投資決定済の第 1 段階に加え、さらに年間 1300 万トンの LNG を生産容量が加わる見込み。

Venture Global LNG 社は、LNG 輸出容量を、年間 1 億トン以上に増加する長期拡張計画を発表した。Commonwealth LNG 社は、LNG 引き取りコミットメントを確保しつつあり、年間 930 万トンの LNG 生産容量への投資決定（FID）を 2024 年第 1 四半期、LNG 引き渡し開始を 2027 年に期待している。

カタール QatarEnergy は、"Qatargas" を "QatarEnergy LNG" と改称、大型拡張 LNG プロジェクトでは、CCS、造船計画を進展している。

* 資源・燃料・エネルギー安全保障ユニット

[アジア太平洋]

中国の北京燃气 (Beijing Gas) は、天津南港 (Tianjin Nangang) LNG 輸入基地第 1 段階設備で、2023 年 9 月 27 日、最初のカーゴを受け入れた。第 1 段階は、220,000 m³ LNG 貯蔵タンク 4 基で、年間 500 万トンの容量を持つ。

中国の广西壮族自治区北部湾经济区规划建设管理办公室 (Guangxi Zhuang Autonomous Region Beibu Gulf Economic Zone Planning and Construction Management Office) は、2023 年 9 月 19 日、国家石油天然气管网集团有限公司 (China Oil & Gas Pipeline Network Corporation (PipeChina)) が、广西壮族自治区北海 LNG 接收站プロジェクト 2 タンクの屋根揚げを完了したことを発表した。

中国の沪东中华造船 (集团) 有限公司 (Hudong-Zhonghua) は、2023 年 9 月 6 日、271,000 m³ LNG 輸送船舶設計の原則承認 (AiP) 認証を、ABS、Lloyd's Register (LR)、Bureau Veritas (BV)、DNV より受けたことを発表した。

中華電力有限公司 (中華電力 = CLP Power)、香港電燈有限公司 (港燈 = HK Electric) は、2023 年 9 月 21 日、香港海上液化天然氣接收站 (LNG 基地) 開業記念式典を実施した。2020 年以降両社が共同開発、建設され、同基地は、索罟群島 (Soko Islands) 東側に位置し、2023 年 7 月に稼働開始した。Bauhinia Spirit は世界最大 FSRU 船舶で、LNG 貯蔵容量 263,000 m³ を持つ。天然ガスは 2 本の別々の海底パイプラインで、中華電力龍鼓灘發電廠 (CLP Power Black Point Power Station)、港燈南丫發電廠 (HK Electric Lamma Power Station) 発電設備へと送出される。

豪州連邦資源・北豪州相は、2023 年 9 月 13 日、豪州が洋上の石油・ガスインフラストラクチャを廃止するための新しい産業を構築する可能性を概説し、この部門の機会を指摘する課題文書を発表した。同相は、議会への説明の中で、プロジェクトの生産が終了した際、インフラストラクチャを廃止する作業は、今後 30 - 50 年間で最大 600 億豪ドルの価値がある可能性があるとして述べた。

豪州連邦の競争・消費者対策規制機関 (ACCC) による、2023 年 9 月分、ガス市場調査報告によると、同国東部ガス市場は、2024 年第 1 四半期、LNG 生産者達が販売未契約分のガスを全て輸出しても、同国東部ガス市場は 1.4 ペタジュール (PJ) (3,388 トン) 余剰となる。第 1 四半期は、高 LNG 輸出需要および気温が高い気象のため家庭用ガス暖房用需要が低い期間である。

豪州の Chevron の Wheatstone ・ Gorgon LNG 設備で、同社と労働組合側との話し合いが不調となり、9 月 8 日より時限ストライキ、同 14 日より 24 時間ストライキが実施された。同国公正労働機関 (FWC) が調停に入り、その調停案に 22 日、両者は合意し、収束に向かっている。

豪 Woodside、関西電力は、2023 年 9 月 7 日までに、両国間の炭素回収・貯留 (CCS) バリューチェーン可能性検討に関する覚書 (MOU) を締結したことを発表した。関西電力は、自社火力発電設備から排出する二酸化炭素 (CO₂) 回収、豪州への輸送を検討する計画

である。Woodside は豪州で CCS プロジェクトを検討しており、日本からの CO₂ の注入・貯留、合成メタン (e-methane) 製造を検討する。

Woodside Energy は、2023 年 9 月 12 日、日本・豪州間の CCS バリューチェーン検討のため、日本企業 3 社と非拘束覚書 (MOU) (2023 年 9 月 7 日に東邦ガス・川崎汽船が発表したもの) を締結したことを発表した。

豪州連邦法廷は、2023 年 9 月 28 日、Woodside 社の Scarborough プロジェクトの一部環境対策計画が、無効であるとの判断を下した。同社は 9 月に地震探査を開始することを希望していた。同社は、修正した環境計画を提出しなくてはならない。

KBR は、2023 年 9 月 25 日、Pluto 合弁事業オペレーター、代表としての Woodside Energy により、エンジニアリング・調達・建設管理 (EPCm) 契約を受注した。KBR は、Pluto LNG 設備第 1 系列改造を担当する。この改造により、同系列を通じて Scarborough ガス年間 300 万トンの処理が可能となる。

サウディ Aramco は、2023 年 9 月 28 日、MidOcean Energy のマイノリティ株式買い取り契約を締結したことを発表した。MidOcean Energy は、グローバルのエネルギー・インフラストラクチャ部門への主導的機関投資家 EIG により創設・経営される LNG 企業である。MidOcean Energy は豪州の 4 件の LNG プロジェクトの持ち分買い取りの過程にある。MidOcean Energy との戦略的パートナーシップは、Aramco にとって LNG 部門での最初の国際投資となる。

株式会社商船三井 (MOL) は、2023 年 9 月 25 日、マレーシア PETRONAS 社の 100% 子会社 PETRONAS CCS Ventures 社および同じく PETRONAS グループの海運会社 MISC 社と、液化 CO₂ 輸送船の開発・保有を目的とした合弁会社設立に基本合意したことを発表した。

豪 Conrad Energy Asia、シンガポール SembCorp Gas は、2023 年 9 月 12 日、インドネシア規制機関 SKK Migas が、Mako ガス田からの 2025 年供給開始の最初の長期ガス販売契約を承認したことを発表した。Conrad Energy Asia はナトゥナ海 Duyung 生産分与契約 (PSC) オペレーターである。

中部電力株式会社は、2023 年 9 月 11 日、bp の子会社 BP Berau Ltd. との間で、インドネシア西パプア州 Tangguh の CO₂ 貯留地の活用に関する実現可能性調査のための協力協定を締結したことを発表した。Tangguh CCUS プロジェクトは、2021 年に同国政府より承認を受けた開発計画に基づき基本設計が進められている。貯留可能量は約 18 億 t-CO₂ であり、同国初の CCS ハブになる可能性がある。

インドネシア Pertamina は、2023 年 9 月 20 日、自社子会社 PT Kilang Pertamina Internasional、Tangguh オペレーターで Tangguh 生産分与協力契約 (PSC) 請負側を代表する BP Berau Ltd (bp) が、Pertamina が Tangguh でブルーアンモニア開発可能性に関連するガス供給・CO₂ 注入可能性に関して実施するスタディにおける協力に関する覚書 (MoU) を締結したことを発表した。

Saipem は、2023 年 9 月 1 日、合弁事業パートナー Tripatra、千代田化工建設とともに、インドネシア西パプア・タングーにおける LNG Tangguh 拡張プロジェクトを bp に引き渡したことを発表した。

インドネシア PT Amman Mineral Internasional Tbk (AMMN) は、2023 年 9 月 20 日、子会社 PT Amman Mineral Nusa Tenggara (AMNT) が、Pertamina との間で、AMNT 側が計画する 450 MW コンバインドサイクル発電設備 (CCPP)、精銅設備への LNG 安定供給確保のため基本合意 (HoA) を締結したことを発表した。当該 CCPP は、2024 年稼働開始を目標としている。

日揮ホールディングス、大阪ガス、INPEX は、2023 年 9 月 25 日、インドネシア Pertamina 子会社 PT Perusahaan Gas Negara 社 (PGN) と、同国のパームオイルの搾油工程で生じる廃液 (POME: Palm Oil Mill Effluent) 由来のバイオメタン活用の事業化に向けた詳細検討を開始することを発表した。2025 年のスマトラ島南部でのバイオメタン製造開始を目指す。バイオメタンを液化したバイオ LNG を船舶燃料として供給する事業やバイオ LNG を輸出する事業の可能性も検討予定としている。

豪 Santos は、2023 年 9 月 1 日、Kumul Petroleum Holdings Limited にパプアニューギニア PNG LNG の 2.6% 持分を譲渡する売却契約を締結したことを発表した。12 月 31 日までに同国競争規制機関の承認を得ることが取引完了条件となる。Santos は追加 2.4% 持分取得も Kumul 側にコールオプションとして認めた。同オプションは 2024 年 6 月 30 日が行使期限となる。2022 年 9 月 27 日、Santos は Kumul から 5% 取得オファーを受けたことを発表した。

[北米]

米ガス協会 (AGA) は、2023 年 9 月 14 日、Potential Gas Committee (PGC) が自国の推定天然ガス資源基盤の年末評価 "Potential Supply of Natural Gas in the United States" を公表したことを、発表した。将来のガス供給は、2022 年は総計 3,978 兆立方フィート (830 億トン) と、前回 2020 年末から 3.6% 増となった。

Sempra Infrastructure 社は、2023 年 9 月 12 日、自社 Port Arthur LNG 第 1 段階プロジェクトの間接・非支配権持分 42% の KKR への売却を完了したことを発表した。Sempra Infrastructure は、支配権付 28% を維持し、ConocoPhillips は残り 30% を持つ。Sempra Infrastructure は 2023 年 3 月、Port Arthur LNG 第 1 段階の最終投資決定 (FID) に達し、Bechtel Energy Inc. に建設を発注した。第 1 系列 2027 年、第 2 段階 2028 年の稼働開始を期待している。

Sempra Infrastructure 社は、2023 年 9 月 21 日、連邦エネルギー規制委員会 (FERC) が、Port Arthur LNG 第 2 段階拡張プロジェクトを承認したことを発表した。提案された第 2 段階プロジェクトは、年間最大 1300 万トンの LNG を生産できる液化系列 2 本 (第 3、4 系列) の追加となる。同社は最近、計画している Titan カーボン隔離プロジェクトを支

えるべく、38,000 エーカーの細孔スペースおよび関連する地表権を取得した。同プロジェクトは、Port Arthur LNG 第 1 段階、第 2 段階プロジェクトからのカーボンを回収することを目標としている。

Tellurian Inc.、Baker Hughes は、2023 年 9 月 5 日、Driftwood LNG プロジェクト第 1 段階に主冷媒コンプレッサーパッケージ 8 件の供給に関する契約を発表した。LM6000PF+ ガスタービン、主冷媒コンプレッサー、コントロールユニットで構成され、2027 年 LNG 生産開始を目標とする第 1 段階向けとなる。

NextDecade Corporation は、2023 年 9 月 20 日、自社子会社 Rio Grande LNG, LLC (RGLNG) が、テキサス州ブラウンズビルの年間 2700 万トン Rio Grande LNG 輸出設備最初の 3 系列 (フェーズ 1) の一部の資金調達のため、優先融資 3.56 億米ドルに関して、複数の貸主連合と信用契約を締結したことを発表した。

Venture Global LNG は、2023 年 9 月 4 日、公称 LNG 輸出容量を、年間 7000 万トンから 1 億トン以上に増加する長期拡張計画を発表した。この取り組みを支えるため、Venture Global ・ Baker Hughes は、前者の将来の LNG プロジェクト向けに、追加液化系列・電力供給システムを供給する拡大版包括機器供給契約を締結した。

Commonwealth LNG は、2023 年 9 月 4 日、スイス MET Group との間で、ルイジアナ州キャメロン郡 Commonwealth LNG 設備から、20 年間・年間 100 万トンの LNG 売買について、基本合意 (HOA) を締結したことを発表した。2023 年 MET はドイツに複数の長期 LNG 容量取引を確保し、フィンランドにスポット容量を拡張した。今回非拘束 HOA 期間は、2027 年の同設備稼働開始により開始する。Commonwealth は、同プロジェクトの最終投資決定 (FID) を 2024 年第 1 四半期目標、最初のカーゴ引き渡しを 2027 年に期待している。同プロジェクトは 6 液化系列・随伴諸設備で年間 930 万トンの LNG 生産容量を持つとしている。

EQT Corporation は、2023 年 9 月 18 日、年間 100 万トンの LNG を生産する 15 年間の加工契約に基づく Commonwealth LNG 設備からの液化業務について基本合意 (HOA) を締結したことを発表した。

Carbonvert Inc. 社および Castex Energy, Inc. 社は完全所有子会社 Castex Carbon Solutions, LLC 社を通じ、2023 年 9 月 18 日、ルイジアナ州との間で、キャメロン郡沖合州管轄水域 24,000 エーカーの区画で二酸化炭素 (CO₂) 恒久貯蔵のため、操業協定締結を発表した。この Cameron Parish CO₂ Hub は、2.5 億トン以上の CO₂ 貯蔵容量を持つ。

Enbridge Inc. は、2023 年 9 月 5 日、Dominion Energy, Inc. との間で、EOG、Questar、PSNC 買い取りの 3 契約を締結したことを発表した。Enbridge は、オハイオ州、ノースカロライナ州、ユタ州、アイダホ州、ワイオミング州のガス公益事業を加えることとなる。Enbridge のガス公益事業ビジネスは、数量の点で北米最大日量 9 bcf (年間 6836 万トン) 超を 700 万件相当の顧客に供給することとなる。

株式会社 JERA は、2023 年 9 月 5 日、子会社 JERA Americas Inc. を通じて、ドイツ

Uniper S.E.、米 ConocoPhillips 社との間で、Uniper 社向け米国産低炭素水素・アンモニアの販売に関する基本合意書 (HOA) を締結したことを発表した。JERA は ConocoPhillips 社と共同で、米国メキシコ湾岸で、大規模に水素を生産し、アンモニアに転換する製造拠点開発を進めており、初期段階で年間約 200 万トンの製造能力を持つプラントを 2020 年代末の商業生産開始を目指す。

Libra Group 海洋部門子会社 Seapath、ヒューストンに本拠を置くクリーンエネルギーソリューション企業 Pilot LNG, LLC は、2023 年 9 月 28 日、米国メキシコ湾で初の LNG バンカリング設備を開発・建設・操業するための合弁事業を設立したことを発表した。2026 年初稼働開始予定の同新規設備建設により、テキサス州ヒューストン・ガルベストーン地域の LNG 燃料船舶に燃料を供給することとなる。Pilot、Seapath は、2023 年第 3、4 四半期に基本設計 (FEED) 作業を継続し、海洋燃料向け小規模 LNG 基地承認、立地、建設、創業に向け必要な連邦、州機関への申請準備を行う。2024 年下半期にプロジェクト投資詳細を発表する見込み。

豪 Santos は、2023 年 9 月 19 日、アラスカ州 North Slope における 148 件の探査リース権 (同州 270 千エーカー以上) における持分の半分を、APA Alaska LLC ・ Lagniappe Alaska LLC との契約により、ファームダウンすることを発表した。Santos はこれらの鉱区を、2021 年、Oil Search 買収の一環として取得した。Santos は、Pikka プロジェクト開発に集中する戦略に沿って、同州での鉱区持分を最適化することができた、と述べた。

bp は、2023 年 9 月 5 日、カナダのブリティッシュコロンビア州 Woodfibre LNG 設備から、3 件目の長期 LNG 引き取りの契約を締結したことを発表した。この年間 45 万トン・15 年間・FOB (本船渡し) 条件での追加引き取り追加契約により、Woodfibre LNG 輸出設備の LNG 生産全量が bp 向け販売に配分され、合計年間 195 万トン分が確定分、残りは柔軟条件での引き取りとなる。bp は 2030 年までに 3000 万トンの LNG ポートフォリオ構築を進めている、と述べている。

New Fortress Energy (NFE) は、2023 年 9 月 27 日、Pioneer II リグが、今後数週間中に稼働開始予定の年間 140 万トン Fast LNG Altamira 生産プロジェクトで液化設備となるメキシコのアルタミラに出航することを発表した。同プロジェクトはリグ 3 基を用いる。Pioneer II は液化用、Pioneer I はガス処理、Pioneer III は居住区・ユーティリティを担当する。他 2 リグは既に設置されている。

[中東]

アブダビ ADNOC Gas 社は、2023 年 9 月 7 日、中国石油国際事業有限公司 PetroChina International Company Limited (PCI) 向けに LNG を供給する 4.50 - 5.50 億米ドル (16.5 - 20 億ディルハム) 相当の契約を発表した。

ADNOC は、2023 年 9 月 6 日、Habshan 炭素回収・利用・貯留 (CCUS) プロジェクトへの最終投資決定 (FID) を発表した。年間 150 万トンの二酸化炭素 (CO₂) を回収・恒

久的に貯留する中東・北アフリカ (MENA) 地域最大級の炭素回収プロジェクトとしている。

カタール QatarEnergy は、2023 年 9 月 14 日、Qatargas が "QatarEnergy LNG" と改称したことを発表した。

Worley は、2023 年 9 月 25 日、カタール QatarEnergy LNG のラスラファンでの CO₂ 貯留プロジェクトの基本設計 (FEED) を実施することを発表した。Worley チームが、FEED スタディおよびエンジニアリング・調達・設計 (EPC) 仕様を 2024 年までに作成する。年間 430 万トンの CO₂ を回収できるものとなる。

カタール QatarEnergy は、2023 年 9 月 27 日、韓国 HD 現代重工業 (HHI) と、17 隻の最新型 LNG 輸送船舶建造契約を締結したことを発表した。QatarEnergy による、North Field LNG 拡張および Golden Pass LNG 輸出プロジェクト LNG 生産容量拡張、長期船団代替需要を支える LNG 輸送船舶調達プログラム第 2 段階の始まりとなる。第 1 段階で韓国、中国の造船所で建造されるべく契約された 60 隻と合わせ、総数が 77 隻となる。

[欧州・周辺地域]

PRISMA は、2023 年 9 月 11 日、AggregateEU 第 3 回入札が同 21 日に開始されることを発表した (日程自体は 8 月 23 日発表済)。同日より、AggregateEU に買主として登録済み企業に、需要集積手続きが開始される。これは同 27 日までとなる。今回より、売主は価格を、オランダ TTF 天然ガス先物価格に対して、EUR/MWh にてディスカウントないしプレミアムにて提示しなくてはならない。

bp は、2023 年 9 月 12 日、Bernard Looney 氏が、最高経営責任者 (CEO) を直ちに辞任したことを自社に通告したことを発表した。暫定的に、Murray Auchincloss CFO が CEO 代行を務める。

National Grid Ventures 傘下 Grain LNG は、2023 年 9 月 14 日、既存容量 375 GWh/d (年間 900 万トン) について 11 月 23 日までの競売を開始したことを発表した。Grain LNG は最近実施した市場コンサルテーションから受けた好意的な感触を活用して規制機関 Ofgem 承認を受け、容量を 3 枠でオファーしている。各枠は、着棧枠 42 隻、貯蔵 200,000 m³、気化容量 125 GWh/d (年間 300 万トン) を早ければ 2029 年 1 月より提供する。また Ofgem と検討し、「共同応札」条件を織り込み、競売に共同で応札して容量を共同利用する方式も促そうとしている。

アイルランドの国家計画機関 An Bord Pleanála は、2023 年 9 月 15 日、New Fortress Energy (NFE) の Shannon LNG 基地・隣接の 600 MW Count Kerry 発電設備許可申請を却下したことを発表した。自国政府のエネルギーセキュリティレビューが完了するまで、自国内での LNG 開発に関して、許可・推進することは適切でない、と述べた。

ConocoPhillips は、2023 年 9 月 14 日、オランダ Gate LNG 基地で、2031 年 9 月から 15 年間、年間 150 万トン、20 億 m³ (2 bcm) 気化容量を確保する契約を締結したことを発表した。

オランダ Vopak ・ Gasunie 間の合弁事業 Gate terminal B.V 社は、2023 年 9 月 25 日、Entrepose Contracting (タンク)、 Sener (設備の残り部分、 Sacyr Proyecta (オーナー側エンジニアリング業務) の VINCI Construction 連合が、180,000 m³第 4 タンク・年間 4 bcm 気化容量を加えての拡張を実施するように選定されたことを発表した。

オランダ NAM は、2023 年 9 月 22 日、 Groningen ガス田からのガス生産を 10 月 1 日付で停止することを政府が決定したことを発表した。2023/2024 年冬季の例外的環境では、ガス生産再開の余地を残している。

Société Générale は、2023 年 9 月 18 日、石油・ガス上流へのエクスポージャー削減の新たなターゲットを示した。2019 年比、2030 年までに -80%、中間的な 2025 年には -50% (従来のコミットメントは -20%) としている。

TotalEnergies は、2023 年 9 月 14 日、自社欧州精製設備向けに、グリーン水素年間 500,000 トンの供給について入札を開始することを発表した。 TotalEnergies は、欧州に 6 件の精製設備、フランスに 2 件のバイオ精製設備を持ち、いずれも水素を使う。同社はこれら精製設備で使う年間 500,000 トンの水素を 2030 年までに再生可能エネルギーで製造するグリーン水素の代替することを希望している。

スペインのインフラストラクチャ操業企業 Enagás は、2023 年 9 月 27 日、ドイツのシュターデの LNG 輸入基地を開発している Hanseatic Energy Hub (HEH) 連合の 10% 買い取りに合意したことを発表した。 HEH 第 1 段階は、年間 10 bcm 浮体貯蔵・気化設備 (FSRU) 船舶が使用されることとなる。174,000 m³ Transgas Force は 7 月にブレーマーハーフェンに到着しており、2023 年末までに稼働開始となる。第 2 段階は、年間 13.3 bcm の陸上輸入基地を含み、2027 年稼働開始見込み、と Enagás は述べた。

ドイツ ムクラン港の民間所有 LNG 基地操業企業 Deutsche ReGas は、2023 年 9 月 9 日、 Deutsche Ostsee LNG プロジェクト計画中の第 II 段階でオファーした気化容量全部を、複数企業が予約したことを発表した。 Deutsche ReGas は、合計年間 4 Bcm (40 億 m³)容量が 10 年間以上オファーされた、と述べた。この追加容量は、既存の Deutsche ReGas が TotalEnergies から備船し 2023 年 1 月から操業している既存の Neptune FSRU、現在は Lubmin LNG とされるものとは別のもう 1 隻の浮体貯蔵・気化設備より提供されることとなる。 Deutsche ReGas はまた、残り数量を後日、短期ベースで予約可能な形でオファーする計画である。

ドイツの公的部門企業 Deutsche Energy Terminal GmbH (DET) は、2023 年 9 月 19 日、初めて貯蔵・送出容量込みでの気化容量競売を行うことを発表した。10 月 16 日、23 日開始の 2 件のデジタル競売手続きで、市場プレイヤー達は、Brunsbüttel、Wilhelmshaven 1 基地の 2024 年、最初の短期容量の利用権を得ることとなる。 Stade、Wilhelmshaven 2 基地の短期容量は、2023 年 12 月、次回の競売でオファーされる計画である。1 年以上の長期容量のマーケティングは、2024 年 4 月に計画されている。

スペインのインフラストラクチャ網運営企業 Enagás は、2023 年 9 月 29 日、ガス輸送

企業 Reganosa から 130 km 分のパイプライン全部を買い取ったことを発表した。Reganosa は、El Musel LNG 基地 25%を Enagás から買い取った。Enagás は、上記パイプライン網買い取りが水素への移行にも資する、と述べた。

イタリア Saipem 傘下の Moss Maritime は、2023 年 9 月 5 日、液化水素 (LH₂) 輸送船舶コンテナメントシステムに関して、船級協会 DNV より原則承認 (AiP) を受けたことを発表した。Moss Maritime は、この LH₂ コンテナメントシステム設計は、Moss LNG 球形コンテナメントシステムにインスパイアされている、と述べている。Moss Maritime は、ノルウェーの研究機関 SINTEF と協力し、DNV から技術支援、Research Council of Norway から資金を受けて、この設計を開発した。Moss Maritime はこの設計開発について、Shell、Equinor、TotalEnergies から支援を受けた。

米務省は、2023 年 9 月 14 日、ロシアのウクライナ侵攻に伴う追加制裁対象として、個人・機関を指定した。ロシアのエネルギー生産・将来の輸出容量拡大に関わる 37 機関を指定し、2 関連船舶を封鎖資産に指定することを明らかにした。これらは Arctic LNG 2 プロジェクト含む主要エネルギープロジェクト、関連インフラストラクチャ開発に関わる機関・個人である。Novatek 子会社で Murmansk、Kamchatka LNG 移送基地オペレーターである Arctic Transshipment をリストに加え、既にムルマンスク、カムチャッカに設置済みの Saam FSU、Koryak FSU を対象とした。

ロシア NOVATEK は、2023 年 9 月 12 日、NOVATEK、Rosseti が Murmansk LNG プロジェクトに電力を供給する戦略パートナーシップ協定を締結したことを発表した。同プロジェクトは、プロセス圧送設備にガスタービンではなく電動ドライバーを使うことを特色とする。

ロシア Gazprom は、2023 年 9 月 15 日、LNG 輸送船舶 Veliky Novgorod が Portovaya コンプレッサーステーション近くの設備で生産された LNG カーゴを、中国唐山 LNG 基地で荷揚を完了したことを発表した。これは Gazprom の LNG の北周航路で (NSR) の最初の引き渡しである。

ロシア Gazprom は、2023 年 9 月 12 日、東部地域ガス化に関する複数の文書が締結されたことを発表した。Gazprom は、ブリヤート共和国、トランスバイカルテリトリーと、2032 年までの地域ガス化計画、ロードマップを締結した。アムール州とは、チェインダ都市地域の 2027 年までの地域ガス化計画、ロードマップを締結した。

[南米]

AES Corporation は、2023 年 9 月 26 日、自社ドミニカ共和国、パナマ事業のマイノリティ持分売却を、Grupo Linda との既存パートナーシップ拡大、Grupo Popular 子会社 AFI Popular との新たなパートナーシップのため、合意したことを発表した。今回の合意には、ドミニカ共和国での AES 事業の 10%を Grupo Linda、Grupo Popular 子会社 AFI Popular に売却することが含まれる。ドミニカ共和国での AES 事業には、LNG 気化基地・

160,000 m³ LNG 容量の貯蔵タンク 1 基、 AES Andres 319 MW コンバインドサイクルガスタービン設備、 DPP 328 MW コンバインドサイクルガスタービン、 150 MW 太陽光・風力発電が含まれる。今回の発表には、パナマ AES Colón 20%の Grupo Linda への売却が含まれる。 AES Colón は 381 MW コンバインドサイクルガスタービン・隣接の 180,000 m³ LNG 貯蔵タンク 1 基を有する気化設備が含まれる。

トリニダードトバゴ National Gas Company of Trinidad and Tobago Limited (NGC) 社は、2023 年 9 月 22 日、 Shell Trinidad and Tobago Limited との間で、後者が操業する Manatee ガス田が推進決定すれば、その天然ガスの一部を含むようにする修正国内ガス販売契約を締結したことを発表した。2019 年、トリニダードトバゴ・ベネズエラ政府は、両国海洋境界線にまたがる Loran-Manatee ガス田の炭化水素資源を、それぞれのシェア分を、それぞれに開発できる協定を締結した。

[グローバル]

Daphne Technology 社は、2023 年 9 月 11 日、就航中の LNG 輸送船舶でメタン排出削減試験が進行中であることを発表した。この試験は、 Daphne Technology からの技術を用い、エンジン製造会社 Wärtsilä が培った熟練を組み合わせる。

お問い合わせ: report@tky.ieej.or.jp